

野の世界は、平和でした。でも、自分中心でなく、客観的に世界を見渡すと、それは少し違うようです。公害、自然破壊などの環境問題、もつと広い範囲で見ると、飢餓に苦しむ人々、人種差別を受けて肩身の狭い思いをしている人々など、すでに深い悲しみにひたつてしまっている人達が大勢います。

また、外国との交際の上でも、穏やかでない面もあります。例えば、貿易関係と、国の経済事情がからんで、お互い不満が出たり、宗教や、国の本来のあり方についての考え方の不一致などを理由に、張り合ったり。そして、それが発展して、自分たちの国を守るために、恐ろしい軍備、戦力を持つはめになるのです。まるで戦争を待ち望んでいるかのよう。その代表とも言えるのが、核です。

戦争なんて、憎しみと欲望のかたまりです。これまで、数々の悲劇を生んだことを知っているはずなのに、今もなお戦力を持つということが、私には理解できません。沢山の人が命を失い、つらい思いを残し、一歩間違えると、地球滅亡へと導く核。いくら使わないといつても、持っているだけで恐ろしいと思いませんか？

小さな問題から、大きな問題まで、数多くの問題をかかえて、そしてそれもまだ未解決のままでは、まだ、本当の平和な時代ではないと思います。

世界中の人が、助け合って、世界中の幸せのためにつくさなくてはならないと思います。平和とは基本です。平和とは一人ひとりの心の持ち方です。自分や、人や、周りを、冷静

に、しかし優しい瞳で見つめることや、地球を愛することができない人間が、真実の平和を求めることができますか。誰もが平和を望んでいるはずなのです。形だけの平和を、手招きして受け入れるのではなく、根本的なことから始めて、平和を作りましょう。そして大きく育てましょう。みんなが平等に幸福に

世界の平和と核について思うこと

東中三年

君島洋子



朝、やわらかな日射しに包まれて、ふと目を覚めます。小鳥のさえずりに、耳を傾けながら、はてしなく広い真つ青な空に、しばし心を奪われる。毎日、こんなに美しい地上で、平和すぎる生活を送れることの、喜びに浸っている。反面、同じ地球上に、人類を滅亡させるほどの、大きな破壊力をもつ核兵器が、たくさん隠されていることを悲しく思いながら。

八月六日、広島原爆記念日。「一分間の黙とうを——」。

なるように、これからずっと育てていきましょ。いつも幸福を強く願い求める心を結んで、みんなを守っていきましょ、平和を。

私は今、世界の平和のために、時間をかけて、ほんの少し力を貸すことができそうな気がしています。そして、その第一歩を踏み出そうとしています。

多くの原爆被害者達にとって、この一分間が、どれだけ切なく悲しい時間に感じられたことか。まぶたを閉じた瞳の奥で、きつと、おさえきれない原爆への憎しみを、必死でこらえているのだろう。

そう、原爆を心の底から憎まなければいけない。憎むことが当然である。何の罪もない何万人もの人々を、次々と死へ追いやり、町を一瞬にして炭に変えた原爆を。危うく命をとりとめた人にまで、後々までつきまどう後遺症をもたらした原爆を。

平和な世の中を築くということは、戦争や原爆、核兵器のない世の中と、世界の人々同志が心から信じあえる、すばらしい人間関係を築くことだと私は思う。

現在、地球上では、核実験を幾度となく繰り返して、人類を滅亡させるほどの、大きな破壊力をもつといわれる核兵器の他、それ以上の破壊力をもつ核兵器へとふくらませようと、世界は今、争うように核兵器開発に力を注いでいる。

なぜ、核兵器を開発する必要があるのか。核兵器の恐ろしい破壊力を知りながら、なお作りだそうとするのはなぜなのか。